

■ キバナノセッコク

Dendrobium tosaense

(平成 22 年 9 月 24 日指定)

徳島県版における指定状況：絶滅危惧Ⅰ類
環境省における指定状況：絶滅危惧ⅠB類
その他の指定：なし



キバナノセッコク（開花期）

種の概要

1) 特徴

草丈が 20～40cm の多年草で、茎は叢生して通常垂れ下がる。葉は数個が互生し、長さ 3～7 cm の長楕円状披針形でやや鈍頭。7～8 月頃、茎の上部に出る総状花序に 3～8 個の淡黄緑色の花を咲かせる。中がく片は長さ 12～17cm の広披針形で鋭頭、側がく片は距の先端を包んだ基部から斜めに広い三角状となり、花弁は長楕円状披針形で上がく片よりわずかに短い。唇弁はあごの下から斜上して反曲し、長さ約 15mm、鋭頭、内面中央部に暗紫色の斑がある。類似種のセッコクとの違いは、花の色の他に、花期が遅いこと、セッコクの花序は葉が落ちた茎につくが、本種では葉のある茎にもつくこと、前者は 2 個づつ花をつけるが、本種は数個の花を総状につけること、花柱の先端に三個の鋭い突起があることなどの違いがある。

2) 生育環境

山地の老木の樹幹や岩石上に着生する。

3) 繁殖生態

種子によって繁殖する。

4) 分布

暖帯南部の四国、九州、琉球に分布している。2000 年版環境省レッドデータブックおよび 2007 年度版レッドリストでは、近い将来における野生での絶滅の可能性が高いものとして絶滅危惧ⅠB類（EN）に指定されている。その生育状況は次のとおりである（環境省版 RDB2000）。

① 現存しているところ

以下に記したのが生育情報の記録であるが、四国では徳島県、高知県のみが現存地となっている。

高知県、佐賀県、長崎県、熊本県、宮崎県。

② 現状不明のところ

東京都、愛媛県、佐賀県、鹿児島県、沖縄県。

③ 徳島県の現状

徳島県では海陽町の数箇所に現存している。また、最近、他の一箇所に生育情報があるが、断崖絶壁上であるため未確認である。

生育地と生育状況

生育地：徳島県海陽町

生育地 1：生育場所は民家に隣接する私有地で、広岡川右岸の落葉樹と常緑樹が混生する小規模な河畔林である。もともと暖で降水量の多い地域であることに加えて、川面から供給される水蒸気によって、樹林内の空中湿度が適度に保たれ、着生ランの良好な生育環境が維持されている。

本種は河畔のムクノキの大木の枝にフウランとともに大量に着生し、徳島県内最大の生育地であった。しかし、平成21年5月に、ムクノキの大木が茂ると隣接する民家の陽当たりや通風が悪くなったり、屋根に落ち葉が堆積したりするなどの理由から、関係者によって樹幹が剥皮され、意図的に枯死させられた。その結果、フウランとともに生育個体数の約9割が生存できない状態に陥った。枯死したムクノキに着生していた大量のキバナノセッコクは、そのまま放置すれば数年の内に枯死するのは明らかである。そこで、広岡希少植物保存会と徳島県植物研究会の会員が枯死したムクノキを伐採し、フウランとともに丁寧に枝から剥がし取り、すぐ近くの自生地の樹林内に全てを移植した。

生育地2：第二の生育地は、前記生育地の北北東約500mにある広岡神社の社叢である。広岡川の河畔にあるこの地は、社叢の規模は小さいが、鎮守の森として地域の人々が大切に保護してきたために、豊かな樹林が維持されている。林冠を構成しているのは、シイ・カン類の常緑広葉樹であるが、その中で一際目立って大きいクロガネモチの老樹があり、その枝に多数のキバナノセッコクが着生している。その他、アラカシやツクバネガシなどの樹木の幹や枝にも着生が見られる。そこで、前記の生育地から救出したキバナノセッコクとフウランの全てをこの社叢に移植した。

絶滅要因

(1) 生息・生育地の消失・分断

最大生育地の大半は着生母樹の枯死と伐採により消失した。

(2) 生息・生育地の質的劣化

第一の生育地は樹木の伐採により大半の生育環境は失われ、残った生育場所も陽当たりや空中湿度などが急激に変化し、質的に劣化したと推測される。第二の生育地は広岡神社の社叢であるため生育環境は良好である。しかし、着生している宿主のクロガネモチは老木であるため、やや樹勢の衰えが見られる。

(3) 過剰な捕獲・採取

本種は野生ランのなかでも全国的にも分布が限られ、個体数も少ない植物で、鑑賞価値も高く、高価で販売されるため、園芸用の採取やマニアによる採取により激減した。その上、ここでは生育場所の樹林の一部が伐採されたり、枯死したりなどで個体数は激減した。

(4) 商業取引等

観賞価値、希少価値が高く、インターネットのサイトや山野草店等で販売され、特に花の色や模様の変化したものは驚くほど高価に取引されている。

保全対策

(1) 保護管理

モニタリング調査

自生地や移植場所の継続的なモニタリング調査によって、生育状況や個体数の把握に努めることが大切である。また、移植地のクロガネモチは老木であるため、樹勢が衰えた場合には、樹勢回復や維持の措置などが必要である。

地域住民・ボランティア団体等との連携

花が美しく鑑賞価値が高いため、無断で採取される可能性がある。それを防止するため、地権者や管理者の了解のもとに、保護団体、NPO、地域のボランティアなどと連携して保護・管理を推進することが重要である。

場所によっては解説や採取禁止の看板を設置し、盗採取防止や生育環境の維持管理に努めることが望ましい。

(木下 覺)